



大神輿の新調【宝暦10年(1760年)】



本殿欄干擬宝珠
【元和8年(1622年)】



表参道の大燈籠【文化2年(1805年)】



茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4-3
072(622)2346
<https://www.ibarakijinja.or.jp/>

常住坐臥 常に、神々と共に暮らす

今年元日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々に対しまして衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々にお見舞い申し上げます。

豊かな自然と美しい四季を合わせ持つ我が国は、太古より幾度となく自然の脅威に見舞われてきました。そしてその都度、先人達は、神々に祈りを捧げるとともに、自然に対する畏敬と畏怖が日本人の自然観や精神性を創り発展させてきました。

「神と共に起き、神と共に食し、神と共に働き、神と共に眠る」という言葉があります。一人の人間は弱いもので、神と共にある人は強い。私達は、嬉しにつけて神を想い、悲しく辛いにつけても神に祈る。常に神と共にあれば、すべてのものが味方となり支えてくれる。そこに心のやすらぎが生まれてくるのです。

令和四年に御本殿創建四百年を記念して、御本殿の改修及び造替事業を実施し、多くの方々からご奉賛を賜りましたが、この度の修復・造営は約九十年ぶりではありましたが、ご創建時の元和八年(一六二二年)以降を振り返ると、平均七年〜八年に一度の割合で何らかの修復や奉祝事業が繰り返し実施され、当神社の神々のご神縁が結ばれてきたのです。

奉賛会総会

茨木神社奉賛会は、氏神様に崇敬の誠を捧げて御神祿を一層深め、神社を立派に護持し、これを子孫に伝えていくことを目的として昭和四十九年に設立されました。

奉賛会の令和六年度総会が、去る四月十八日(木)に開催されました。四月十八日は、当神社の「祈年祭」の日にあたり、以前は総代のみの参列のもと齋行されていましたが、平成の初めの頃より奉賛会総会を開催し、氏子・崇敬者としてご参列いただいております。

午後二時より会員五十八名のご参列のもと本殿にて「祈年祭」を齋行、その後、会場を参集殿に移し総会を開催。令和六年度事業計画・予算案などの審議が行われ承認されました。

＊講演「茨木の川と人々」

総会に続いて、磯良神社・西河原新屋坐天照御魂神社総代の木村威英氏により、「茨木の川と人々」と題して講演していただきました。

◇現西河原地域が安威川の東に位置しているのに、なぜ「西河原」と呼ぶのか。

古地図などから、当初西河原村

は安威川の両側(東西)に広がっていたことが分かる。さらに地層調査の結果等から、古代、安威川は現在よりも東を流れていたことが分かった。そうすると、安威川の西側に村が広がるので「西河原」と名付けられた。その川の流れが、洪水を繰り返すことによって西へ西へと移り、現在の状態となった。



講演会の様子

◇村人と安威川の氾濫との戦い

洪水から村を守るための戦いにおいて、堤防を高く築いたことから安威川が天井川となってしまうこと、洪水対策をめぐって他の村々との意見の対立も紹介された。そして、洪水で悩まされた村々の様子を当時撮影された写真をもとに紹介すると共に、村を守るた

めの防災訓練や、崩れた堤防の復旧作業をする村人達の様子も示された。



寺町橋流出の様子

◇茨木川と安威川の合流事業への苦勞

江戸時代から合流の構想はあったことを史料で示され、昔より村人達が洪水に深く悩まされていた様子が分かった。また実際に合流工事へ取りかかるために、国へ予算を要望し、認められようとした時に二・二六事件が起こり大蔵大臣高橋是清が殺害され、国の予算の話は白紙へ戻ってしまったエピソードも紹介された。

始まった工事の様子を、戦争など当時の社会状況の中から分析されると共に、トロッコ列車など実際の工事の様子を木村氏のお父様

のお話から詳しく再現していただいた。

◇高島伊太郎氏の私財を投じての神崎川改修

また、もう一つの課題である神崎川の改修を、自らの財を使って取り組んだ高島伊太郎氏についても紹介された。村人達は、高島氏への感謝とその功績に対し、高浜町の道祖神社に御祭神の一柱として奉斎されている。

◇茨木中学(現茨木高校)のプールと日本水泳

また川は、茨木の人々に大いなる恵みも与えてきている。特に茨木川の水を引いて、全国のパイプとして学校プールを作り、そのプールで練習した高石勝男氏を始め、多くの人達がオリンピック等で活躍したことも特筆される。



五輪代表団を送る様子

稲荷神社

当社社境内の北端に御鎮座する稲荷神社は、現在の社殿が創建されて今年で丁度一〇〇年目を迎えます。

稲荷神社は宇迦御魂命を御祭神として延享三年(一七四六)七月七日に現在の場所に御鎮座されました。



修理前の稲荷神社

江戸時代を通じて稲荷信仰が盛んとなっていました。その理由の一つに、紀州藩の家臣であった田沼意次が邸内に稲荷大神を祀ったことにより老中にまで出世したことから武士の間に広まり、また商工業の発展に伴い、災いを除き

福を授けるといふ信仰が商人の間に広まったことがあげられます。その影響もあるのでしょうか、当稲荷神社は明治の初年頃まで「出世稲荷」と称されていました。

明治三十年(四十年頃より、ある稲荷下し(稲荷信仰を広める民間信仰者)が当稲荷神社を「一文字稲荷」と称し、その呼称が定着するようになりました。

宇迦御魂命の別名である御饌津神から名付けられたと考えられる御敬津講員の篤志によって、大正十三年(一九二四)十月に現在の社殿が造営されました。社殿は銅板葺の屋根を持ち、正面に唐破風を構えています。同月三十一日に別殿で奉斎されていた猿田彦命を合祀しました。

例年、二月の初午の日には、稲荷神社例祭を斎行しています。

*稲荷神社鳥居奉納並びに唐破風修理

稲荷神社前には朱色の鳥居があり、それぞれの年代に氏子の方々から奉納されたものです。しかし、雨風などによる影響で中には劣化が著しいものもありました。そのため、一基を新しいものへと造り換えることとなり、三月七日に撤去清祓を斎行し、その後工事が開

始されました。そして三月三十一日に、稲荷神社鳥居竣工奉告祭を斎行いたしました。

また社殿も、大正十三年造営のため老朽化が著しく、昨春秋、強風のため唐破風の屋根銅板の一部が破損しました。そのため、今年台風等から防護のため修理することになりました。まず五月九日に奉告祭を斎行、工事が始まりま



奉納された稲荷神社鳥居



「神宮式年遷宮」御聴許

伊勢の神宮では、二十年に一度全ての社殿を建て替え、御装束・御神宝も全て新調する我が国最大のお祭りである式年遷宮が行われています。去る四月八日、天皇陛下の御聴許をいただき、令和十五年に予定されている第六十三回神宮式年遷宮に向けて、正式な準備の一步を踏み出すこととなりました。

◇茨木地区福祉委員会による植樹について

昭和四十九年に発足された茨木地区福祉委員会は、今年令和六年に創設五十周年を迎えられました。それを記念して、境内奥の梅園の一角に、一本の木に赤と白の二色の花が咲く『源平咲き』の特徴を持つ桃の木を植樹していただきました。これは源氏の旗が白で、平氏の旗が赤で、一本の木に赤い花と白い花が競い合うように咲くことにちなみます。

また添えの木として、水仙・山茶花・蟬梅も植樹されました。この新たな三種類の樹木に、当初からの梅を加えた四つの花々を合わせて「雪中四友」といいます。これは寒い季節において、雪の中で

もめげずに美しく咲くことから名付けられたものです。

平成の御大典を記念して造成された梅園において、三月初旬から中旬にかけて咲く梅の花。今回植樹されました、三月下旬から四月上旬にかけて咲く桃の花。そして元茨木川緑地に咲き誇る多くの桜の花。更には、今回の元茨木川緑地整備事業において五月初旬の新緑の中で美しく咲く花水木が植えられました。花々によって紡がれる冬から春へと続く一つの物語を感じていただければ幸いです。



植樹された桃の木



茨木地区福祉委員会の皆様、誠にありがとうございました。

春の花手水

三月下旬に、氏子の方々の篤いご奉仕により、春の花手水をご奉納いただきました。参拝の皆様も美しい花々をご覧いただきながら、春の訪れを感じていただきました。



今後の神事について

◆大祓・輪くぐり神事

六月三十日午後二時より、本殿前にて大祓神事を斎行いたします。

◆夏祭

七月十三日【宵宮】は、午後に触

れ太鼓が氏子地域を巡行し、翌日の神輿渡御を氏子の皆様に知らせます。十四日【本宮】はまず子供神輿が、その後午前十時頃より神幸祭の後、大神輿が宮出しします。

これからの行事予定

◆大祓神事

六月三十日 午後二時斎行
人形祓・茅の輪くぐり
厄除神楽

茅の輪守授与

◆夏祭

七月十三日・宵宮
十四日・本宮

午前十時斎行

神輿渡御・神楽奉納

◆末社琴平神社例祭

九月十日

◆例大祭（秋祭）

十月十日 午前十時斎行

◆七五三詣

十一月中随時

祈禱者にお守り

おみやげ授与

◆末社恵美須神社例祭

十一月二十日

◆天石門別神社記念祭

十一月二十二日

◆新嘗祭

十一月二十三日

◆大祓・除夜祭

十二月三十一日

神社ウェブサイト「夏祭 特集ページ」を開設しました。

この度、茨木神社公式ウェブサイトにて、茨木神社夏祭のあゆみや、現在の様子を簡潔にまとめた特集ページを作成いたしました。遅くとも江戸時代中期には始められ、摂津国「島下郡の祇園祭」と親しまれてきた夏祭の歴史や、7月13日【宵宮】・14日【本宮】の様子を、写真を用いながら解説しています。また「茨木神社公式YouTubeチャンネル」にある令和元年斎行の夏祭をまとめた動画へリンクも貼っています。Google等で「茨木神社」と検索、もしくはQRコードからどうぞご覧下さい。



<https://www.ibarakijinja.or.jp/natsumatsuri/>